

開設当時の三田尻駅前(明治31年)



現在の防府駅前

青眼 61号

2000年の史都防府

松浦正人
活動報告誌 / 発行日:平成29年(2017年)1月10日
発行人:松浦正人後援会、松浦正人を支える会

“とことん防府”100年に向けて

市制施行80周年記念式典 盛大に開催

去る平成28年8月25日、防府市公会堂において市制施行80周年記念式典を執り行いました。姉妹都市の広島県安芸高田市、アメリカ合衆国モンロー市それぞれから市長をはじめ多くの方々に遠路はるばるお越しいただくとともに、市内にご在住の昭和11年(1936年)生まれの方々1,146人全員にご招待状をお送りし、このうち約500名もの方々がお出席くださり、1,600名収容の公会堂が満席になるほど市民の皆さまにご出席賜りました。夕方からは航空自衛隊西部航空音楽隊による記念コンサートを開催することが出来、次なる100周年に向けて大いなる第一歩を踏み出しました。

とことん防府を貫きます

80周年という大きな節目をむかえた防府市ですが、戦前戦後、今日まで幾多の困難をのり越えてまいりました。周防の国の国府が置かれ、この界隈の政治・経済・文化の中心地として栄えた防府ですが、周防一ノ宮である玉祖神社の創建は景行天皇12年(西暦82年)ですから、防府市は二千年の史都ともいえる山口県で最も古い有史を刻んでおります。

母なる川、佐波川と広大な平野、そして三田尻・中関港という良港に恵まれ、**“学ぶなら防府、働くなら防府、住むなら防府、まさに地力あるふるさとです。まちづくりは永遠の課題です。市役所本庁舎の建設場所を早急に定め、中心核を定めてゆかねばなりません。行政、の的確な判断と”**市民の**“決断”**によって更なる発展をとげてゆけると確信しております。**“市民、の代表たる市議会の顔ぶれも一新致しました。議会の皆さまと力を合わせて働いてまいる覚悟です。”**

全国市長会会長代理に就任

前任の森民夫氏(長岡市長)の退任により会則の定めるところにより9月7日から大役を担うこととなりました。本年6月の全国市長会総会までの日々ですが全国814市区(791市23特別区)で構成される全国市長会のリーダーとして、**基礎自治体の声をしっかり国に伝えてゆくべく全力を尽くして働いている毎日です。**(詳細7ページ記載)



長平山頂より

後援会報誌 青眼 について

お約束の実践

“青眼”とは青眼→白目の故事が語源で、複雑な“政治”の世界で多くの人々に出逢う中で、青く澄んだ瞳—青眼で人と接し、世の中をみつめ、クリーンな姿勢で働くよう…との祈りをこめて名付けられたのです。今日まで36年間、計約158万部発行しております。この活動が評価され平成20年(2008年)マニフェスト大賞ノミネート賞を受賞しました。

158万部突破! おかげさまで61号

松浦正人のプロフィール

- 昭和17年9月10日、父藤一郎、母とみの次男として中華民国江西省九江市に誕生。
- 松崎小、山大付属中、防府高校を経て昭和40年早稲田大学卒業
- 直ちに(株)緑屋入社。25歳、昭和42年9月帰郷、家業従事
- 38歳、昭和55年11月…防府市議会議員(1期)
- 44歳、昭和62年4月…山口県議会議員(3期)、自民党県連政調会長等歴任
- 55歳、平成10年6月…防府市長(5期目)、全国市長会会長代理
教育再生首長会議会長・福門市長会代表幹事
全国市長会まち・ひと・しごと創生対策特別委員会委員長

信条 気付き即行・感恩報謝・現実大肯定
趣味 読書 / 上廣榮治先生・安岡正篤先生ご著書、月刊誌「致知」
 スポーツ / 山歩き・野球・ゴルフ・ブル歩き
家族 妻・長男・長男妻・孫3人(同居)。
 次男・次男妻・孫4人(市内在住)。
 長女市内に嫁いで孫2人、孫9人すべて市内在住。

三代目
4家族17名
1才~12才(小6)

